

# 里山広葉樹活用シンポジウム

(開催結果概要)

1. 開催日時 平成30年3月23日(金)13時30分～17時10分
2. 会場 近畿中国森林管理局4階大会議室
3. 主催者 林野庁近畿中国森林管理局  
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所関西支所
4. 参加人数 76人

## 5. 概要

### (1) 第1部 プロジェクトの報告

近畿中国森林管理局、森林総合研究所、森林総合研究所関西支所における広葉樹活用プロジェクトについて、報告を行いました。

### (2) 第2部 川上からの報告

国有林からは、近畿中国森林管理局管内国有林の広葉樹資源のポテンシャル、民有林からは、鳥取県日南地域における広葉樹活用の取組について、報告を行いました。

### (3) 第3部 川中・川下からの報告

川中・川下の立場から、国産広葉樹材の調達方法や木材製品への利用状況等について、報告を行いました。

### (4) 第4部 パネルディスカッション「広葉樹のバリューチェーンを構築するために」

広葉樹のバリューチェーンの構築に向けて、川上・川中・川下の各主体が情報やアイデアを出し合い今後の方向性を検討する観点から、パネルディスカッションを行いました。

各主体からは、次のような情報・アイデアが出されました。また、本シンポジウムのように、今後も川上～川下の関係者が相互に情報交換し、連携して取り組んでいくことの重要性を共有しました。

## <川上>

- ・現状では、製材として利用できるような広葉樹材であっても、選別されずに全てチップになっている。
- ・川下には、中径木の需要を高めるような高付加価値の製品の開発や、特定の樹種だけでなく多様な樹種を活用できるような需要をつくることをお願いしたい。
- ・自らの取組としては、伐採・搬出の生産性を向上させる努力が必要であると認識している。

## <川中>

- ・近畿中国地方の里山広葉樹林の状況を見る限り、広葉樹のみの伐採で採算が合う様な山はほとんどない。
- ・薪や製材として利用するためには、乾燥が重要である。
- ・広葉樹の伐採を継続することにより、企業の目に留まるようになり、薪やチップ以外の用途への需要拡大につながっている例がある。

## <川下>

- ・以前は見た目がきれいな材が求められていたが、現在は節のある材がナチュラルで良いと評価されるようになってきていることや、銘木の大きな一枚板のようなものではなく、小さくカットした工作用の木材がよく売れるようになってきていることなど、需要に変化が生じている。
- ・広葉樹材は、同一樹種が大量には集まらないことから、材の特性に応じてグループ分けした上で異なる樹種を用いるような製品の開発を考えている。
- ・採算性を考えると、製材としての利用だけではなく、チップ等としての利用を合わせて行い、木一本を使い切る努力が必要である。



### シンポジウムプログラム

開 会 (13時半、13時受付開始)

#### 第1部 プロジェクトの報告

- ・里山広葉樹活用プロジェクトの概要と経過報告 近畿中国森林管理局
- ・森林総研広葉樹プロジェクトの報告 森林総合研究所 林業経営・政策研究領域 木材利用動向分析担当 チーム長 青井 秀樹
- ～国内広葉樹資源の需給実態と地域資源の活用に向けた対応～

- ・森林総研関西支所広葉樹プロジェクトの報告 森林総合研究所 関西支所 山村振興担当 チーム長 垂水 亜紀
- ～近畿圏における広葉樹資源の需給実態の把握～

#### 第2部 川上からの報告

- ・管内国有林の広葉樹資源のポテンシャル 近畿中国森林管理局
- ・鳥取県日南地域における広葉樹産業の展望 日南町森林組合 企画管理課長 木村 実次

#### 第3部 川中・川下からの報告

- ・地元広葉樹の活用 正垣木材株式会社 営業部長 岡村 勝弘
- ・外材から国産材へ: 広葉樹製材需要の動向 越井木材工業株式会社 常務取締役 松本 義徳

#### 第4部 パネルディスカッション : テーマ「広葉樹のバリューチェーンを構築するために」

- モデレーター 青井 秀樹 (森林総合研究所 木材利用動向分析担当チーム長)  
 パネリスト 木村 実次 (日南町森林組合 企画管理課長)  
 岡村 勝弘 (正垣木材株式会社 営業部長)  
 松本 義徳 (越井木材工業株式会社 常務取締役)  
 垂水 亜紀 (森林総合研究所関西支所 山村振興担当 チーム長)  
 高井 秀章 (近畿中国森林管理局 森林整備部長)

ま と め 松本 光明 (森林総合研究所 関西支所長)

開 会 (17時予定)



第1部プロジェクトの報告 (近畿中国森林管理局)



第4部パネルディスカッション